日本食パターンと抑うつ症状の関連: J-ECOHスタディ



国立健康危機管理研究機構 臨床研究センター 疫学・予防研究部 三宅 遥

研究背景

魚(Li F, et al. 2016)、大豆製品(Zhang T, et al. 2022)、緑茶(Yaegashi A, et al. 2022) など、

日本食に多く含まれる個別の食品については、精神的健康との関連を示す報告がある。

一方で、日本食全体の食事パターンと抑うつ症状との関連については、依然として明らかではない。

日本食の特徴

一汁三菜をベースとして、白米を中心に、魚や肉、野菜、海藻、豆類など多様なおかずを組み合わせる食生活



日本人の栄養課題

- ① 塩分が多い
- ② カルシウム摂取量が少ない
- ③ 穀類由来の食物繊維が少ない



目的

事前定義型の「伝統的日本食パターンスコア」と、その栄養面を補った 「改良型日本食パターンスコア」を開発し、抑うつ症状との横断的関連を検討する

方法

研究対象者

J-ECOHスタディの一環として2018年度~2021年度に実施した 質問紙調査(共通調査)に参加した施設(5社)の従業員12,499名





調査方法

- ・食事摂取頻度質問票を用いて、21の食品項目と7つの飲料項目について 最近1ヶ月の摂取頻度を尋ねた
- ・ 抑うつ症状はCES-D11項目短縮版を使用し、33点満点中9点以上を 抑うつ症状ありと定義

解析

施設をランダム効果としたマルチレベルポアソン回帰分析により、日本食スコア遵守度の四分位別抑ラつ症状の有症率比と95%信頼区間を算出



日本食スコア構成要素

① 伝統的な日本食パターンスコア

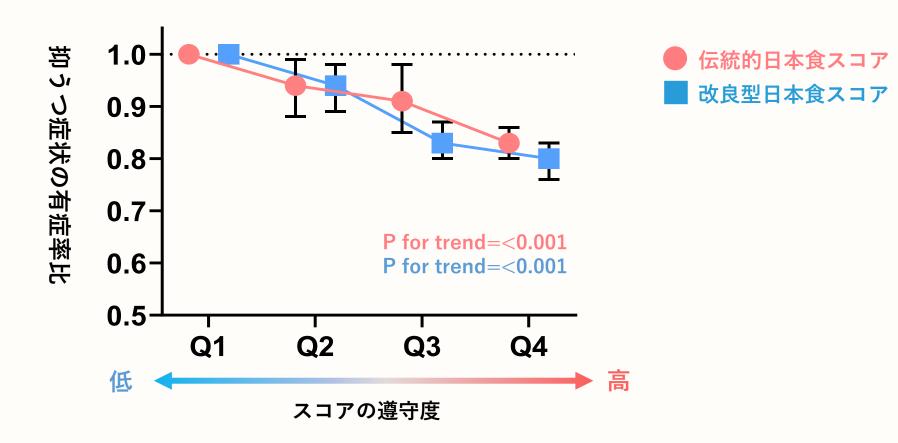
② 改良型日本食パターンスコア



結果:日本食スコア遵守度と抑うつ症状



伝統的日本食スコア及び改良型日本食スコアの両方で、 遵守度が高くなるほど、抑うつ症状の有症率比が下がる傾向がみられた



年齢、性別、飲酒、喫煙、余暇運動、教育歴、職位、残業時間、勤務形態、婚姻状況、BMI、睡眠時間、 CVD・がん・糖尿病の現病/既往歴を調整

結論



本研究では、日本人労働集団において伝統的日本食パターン及び改良型日本食パターンの両方で、食事パターンの遵守度が高いほど抑うつ症状の有症率比が低いことと関連していた



両スコアであまり違いが見られなかった理由として、 葉酸やn-3系脂肪酸、抗酸化物質、食物繊維など抑うつに予防的に働く可能性が ある栄養成分が両方の日本食パターンに同程度含まれていたことが考えられる

■論文

Psychiatry and Clinical Neurosciences / Volume 79, Issue 8 / pp. 473-480







Association between the Japanese-style diet and low prevalence of depressive symptoms: Japan Epidemiology Collaboration on Occupational Health Study

☐ This article relates to: >

Haruka Miyake BA 🔀, Akiko Nanri PhD, Hiroko Okazaki MD, PhD, Toshiaki Miyamoto MD, PhD, Takeshi Kochi MD, Isamu Kabe MD, PhD, Aki Tomizawa MD, Shohei Yamamoto PhD, Maki Konishi, Seitaro Dohi MD, PhD, Tetsuya Mizoue MD, PhD ... See fewer authors \land

PMID: 40524496

DOI: 10.1111/pcn.13842



■メディア掲載

朝日新聞デジタル記事:



